

地域おこし 協力隊通信

Vol.23

⑧くらしデザイン課
(☎21-1121)



キタムラジュン

■協力隊員、能登へ行く

能登半島地震および豪雨被害後の現状を視察してきました。

現地ボランティアの拠点に滞在し、奥能登エリアを巡ると、報道からは感じることのできない学びの連続でした。

例えば、災害仮設住宅は学校の校庭に設置されるケースが多く、子どもたちがグラウンドを使用できない状況は今も続いています。



地震被害から1年が経過した能登の様子

平時から外部とのつながりを持つことが被災時に役立った事例や、復興の進む地域と遅れる地域の違い、二次被害についても知ることができました。

「地域で災害が発生した際に、自分はどうするのか？」

今後、掛川市の防災・まちづくり（特に沿岸部）に生かしていきます。

■地域の特産品を商品化

市制20周年を記念して、掛川南部エリアの「沖ちゃん塩」「よこすかしろ」「どうもんの里レモン」を使った商品開発（地ビール）に取り組みました。地域の方と一緒にレモンの皮むきを行い、果汁だけでなく皮も活用しています。

塩のミネラル感やレモンの爽やかな酸味を詰め込んだ小麦のクラフトビール『SIO NO MITI』や、カゲガワビールほかにて数量限定販売となります。



地域の協力で完成した缶デザイン

3/8

津波被害軽減への一歩 潮騒の杜植樹祭



▲植樹をする参加者

海岸防災林による津波被害軽減を目的に、千浜海岸防災林で潮騒の杜植樹祭が行われました。パートナーシップ企業やNPO法人時ノ寿の森クラブなどから約120人が参加し、クロマツなどの苗木約800本を植えていきました。平成24年度からはじまり、これまでに約10万本を植樹しました。

3/1

夢と希望の輝き はばたけ未来の吉岡彌生賞表彰式を開催



▲賞状を掲げる受賞者ら

令和6年度第9回「はばたけ未来の吉岡彌生賞」の表彰式が、市役所で行われました。市内をはじめ全国の児童・生徒から夢と希望に満ちた研究作品を募集し、応募総数100点から18作品が入賞。8人と1チームの受賞者が出席し、賞状や副賞が贈られました。